



写真2 天武天皇・持統天皇陵大内陵

- 美術館（東京都台東区上野公園）
- 東京国立博物館の考古学ギャラリー（東京都台東区上野公園）
- 京都市考古資料館（京都府、上京区）
- 京都大学総合博物館（京都府、吉田本町）
- 国営飛鳥歴史公園館「キトラ古墳壁画体験館 四神の館」（奈良県）
- 奈良県立橿原考古学研究所での考古学展示（奈良県橿原市畝傍町）

- 3) 発掘物および考古公園への訪問
- 国営飛鳥歴史公園（奈良県）
- 平城宮跡（奈良県）

- 京都市北部にある墓

- 4) 考古学者との面談および面会

- 吉井秀夫先生
- 高橋知奈津先生
- 辰巳俊輔先生
- 東影悠先生
- 鈴木靖民先生



写真3 天武天皇・持統天皇陵大内陵

議論を始めるた

め、さらには日本の考古学的研究方法論を学ぶために、質問を用意しました。各考古学者の答えは必ずしも同じではなく、また全ての質問に答えられるわけではないというのも興味深いことでした。このことは八角墳のトピックが現在進行形であり常に進化していることを表しています。

## 神奈川大学訪問記



劉 珊珊  
(北京師範大学)

2019年11月20日、東京・羽田空港に着き、電車とタクシーを乗り継いで、現代日本の民俗学研究の中核である神奈川大学に到着した。神奈川大学(略称は神大)は、1928年に、東京にほど近い横浜市に設立された商科学校の横浜学院を前身として、1949年の学制改革で新制大学に生まれ変わった日本でも有名な私立大学である。神奈川大学には日本の民俗学研究の重要な機関である日本常民文化研究所が設けられ、付置機関の非文字資料研究センターが発行する『非文字資料研究』は民俗学研究の重要な刊行物である。国際交流の面では、神大民俗学系の各機関も毎年、交換留学、研究連携などの形で、北京師範大学、華東師範大学、中山大学、台湾の国立大学及び韓国、欧米の有名大学などと提携している。学術交流協定を結んでいる北京師範大学民俗学専門の博士課程在学学生である私は、幸運にもこの訪学の機会に恵まれた。

日本に到着した翌日、今回の指導教員である小熊誠先生にお会いした。先生は神奈川大学非文字資料研究センター長を務められ博士課程で教鞭を執られており、国

際民俗学会連合会発起人メンバーの一人でもある。また、日本民俗学会の元会長であり、日中比較民俗学、沖縄文化、風水文化などを研究されている。小熊先生は背が高く、黒縁のメガネをかけていて、その厚いレンズ越しにも知恵と厳しさが垣間見えた。また、先生の短い髪からもとてもエネルギーな印象を受けた。私の研究が客家文化に焦点を当てたもので、日本の「本家」と「分家」について興味があると伝えたところ、小熊先生は聞き取り調査先に積極的に連絡を取り、六角橋の山室家に連れて行ってくださった。私自身、日本の文化やマナー、特に言葉についての知識が不足していたため、3時間の聞き取りでは少し遠慮してしまい、振る舞いに自信が持てなかった。小熊先生は、私に寛容で、聞き取りを引き受けてくださり、おかげで私は、山室家の歴史や「本家」と「分家」との関係、年中行事について、初歩的なことを理解することができた。

神奈川大学の日本常民文化研究所の所長である佐野賢治教授は、日本の有名な民俗学者の一人で、文化庁文化財専門委員、日本学術会議連携会員など多くの職務を

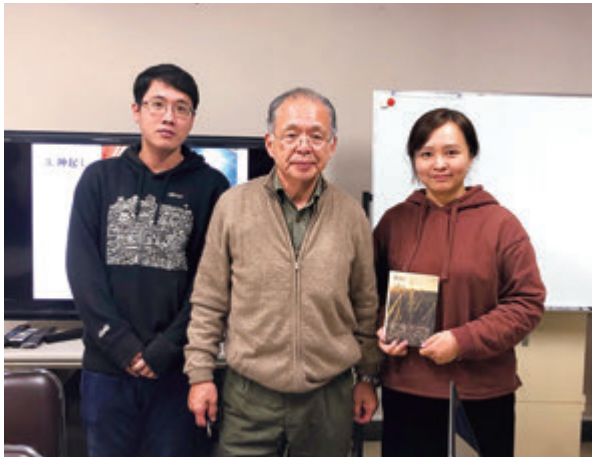


写真1 本を寄贈してくださった佐野賢治先生（中央、右が筆者）

歴任した。佐野先生と初めてお会いしたとき、先生は大学院のゼミの最中であつた。先生が時折立ち上がって黒板に「天皇」「国家神道」等のキーワードを書き、学生たちが先生の講義を聞きながら、しきりに記録を取っていた。佐野先生の表情は厳肅だが、声が温和でおごり高ぶらない人格者といった雰囲気である。間もなく授業が終わろうかという時に、先生は私に自己紹介を求め、その後北京師範大学の民俗学の現状について説明を加えられた。佐野先生は幅広い研究を行っている。1980年代から1990年代にかけては、中国雲南省、貴州省、四川省などの地域の少数民族の研究、特に民族衣装・冠婚葬祭・言語文字・トンパ教などに関心を持たれ、さまざまな成果を出された。近年、佐野先生は日本民俗学の原点の研究に改めて焦点を当て、民俗学を“幸福の学”とする考え方を唱えておられる。佐野先生はお忙しいだろうと予想していたため、まさか私の発表会に登場し本を

プレゼントしてくださり、メッセージまでいただいけるとは思わなかつた。とても感動した。

わずか20日間の短い期間の訪問ではあつたが、とても充実した有意義な時間を過ごすことができた。東京のいくつかの博物館を訪れ、大好きな寿司を味わい、さらに、三浦市の小さな漁村を調査しているときに、幸運にも日本の象徴である富士山を見ることができた。この神奈川大学の旅では、日本人の思いやりと温かさに触れ、日本の伝統的な面と現代的な面の両方を見ることができた。そして最後に、地元の方の家に連れて行ってくださり、日本民俗学の中心人物である福田アジオ先生を紹介していただいた小熊先生に感謝したいと思う。小熊先生のおかげでとても勉強になった。横浜にいたときはほとんどが雨で、気温もかなり下がつたが、先生方の博学と知恵、情熱は永遠に心に刻みつけられ、終生忘れることはないだろう。



写真2 遠く眺める富士山

## トキワ松学園小学校の俳句授業

デボラ フェルナンデス タバレス  
(サンパウロ大学)



この冬の日本滞在中、ある晴れた日に私は東京のトキワ松学園小学校を訪問した。

通訳と私は、校長の栗林明弘先生に温かく迎えられた。俳句の本に囲まれてお茶を飲みながら、私たちは先生が俳句を詠まれること、日本の俳句の協会に所属していることなどを伺った。先生はトキワ松学園小学校の教師や生徒に、俳句を学んで実際に作ることを奨励しているが、俳句作りは今の日本の学校ではあまり行われていないという。この学校の生徒たちは俳句のコンテストにも参加している。先生は、心の内を表現する方

法として生徒たちに創造性を発揮させることの重要性も強調された。俳句作りはそのための場の一つになっている。

私たちは美しい季語カルタの箱入りセットを見せていただいたが、それは教師が遊びを通して俳句を教えるために使うものだった。

短い歓談の後、栗林先生による4年生の俳句の授業が始まった。

樹木や草花に囲まれ、子どもたちが遊ぶための美しい大きな木造の遊具がある広い校庭で、22人の生徒と